

1979

CHANNEL STRIP



クイックスタートガイド

取扱説明書 Ver1.00



株式会社 サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3

TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度は、*DRAWMER 1979* チャンネルトリップをご購入いただき、誠にありがとうございます。
1979 チャンネルトリップは、1U のコンパクトなラックスペースから、クラシックな使い勝手とアナログならではの音楽性を提供します。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただきため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

主な機能

マイク、ライン、楽器用 DI 入力に対応し、透明感のある録音を実現する超クリーンなプリアンプを搭載しています。ステップゲインは 66 dB です。切替式インピーダンスによるマイクのマッチングに対応し、スタジオ内のあらゆるマイクの性能を最適化します。

LIFT 機能は、自然で心地よいサウンドのダイナミック・ゲインを提供します。0 dB 未満の信号をブーストし、0 dB を超える信号はそのままに保ちます。ボーカル、フィンガーピッキングのアコースティックギター、ピアノなど、ダイナミックレンジの広いソースを録音する際、静かな部分の細部を引き上げます。

3 バンド・パラメトリック EQ は、周波数を連続可変で制御でき、±12 dB のカット／ブーストに対応します。さらに、ミッド帯の帯域幅 (Q) を切り替えられるため、微調整から問題のある録音の補正まで幅広く対応します。

多機能コンプレッサーはダイナミクスを精密に制御できます。繊細なボーカルのコンプレッションから力強いドラムの処理まで幅広い用途に適します。

出力セクションには、パラレル処理用のウェット／ドライ・ミックスを搭載し、EQ とコンプレッションの量を容易に調整できます。出力ゲインのコントロールに加え、EQ とコンプレッサーを完全にバイパスして超クリーンなマイク出力を得るスイッチを備えます。すべてのレベルは、バックライト付き VU メーターで正確にモニターできます。

各部の名称



前面パネル構成

1979 チャンネルストリップの前面パネルは、プリアンプ、イコライザー、コンプレッサー、出力の 4 つのセクションに分かれます。

プリアンプ

SELECT (Instr./Line/Mic 2.4k, 600 & 200 Ohm/Mic +48V)

このスイッチで入力ソースとマイクの負荷インピーダンスを選択します。INST 位置では、ソースは前面のインストゥルメント用ジャックから入力します。LINE 位置では、背面の XLR から入力します。各入力には自動レベル (24 dB) が付きます。

残りの 4 つの位置は背面のマイク入力をソースにします。最初の 3 つの位置は、ダイナミックマイクのマッチングを助けるために、負荷インピーダンスを 200、600、2.4k オームに設定します。+48V Phantom Power 位置では、XLR ケーブルを通じてコンデンサーマイクに 48V を供給します。

注意：マイクが必要としない限り、+48V を有効にしないでください。

インストゥルメント入力

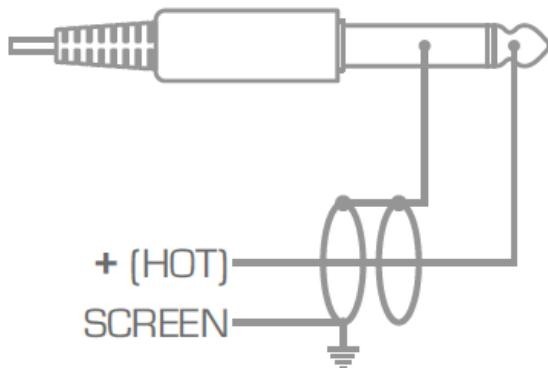
このフォン端子は、アクティブ/パッシブのギターや電子キーボードなどのインストゥルメント入力を提供します。

アンバランス・モノラル・インストゥルメントジャック

TRS プラグ端子

先端 (TIP) = (+/HOT)

スリーブ (SLEEVE) = シールド (SCREEN)



φREV 位相反転 Off – On

極性を反転します。複数本のマイクで楽器を録音する際に有効です。反転しない場合、互いに部分的に打ち消し合い、音が非常に瘦せる可能性があります。片方のチャンネルだけ位相を反転しても改善します。

入力ゲイン 0~+66 dB

12段のスイッチで、6 dB刻みのゲインを0~+66 dBまで加えます。目盛が明瞭で、素早く正確に設定できます。LEDメーターを目安に、最良の音量となるよう各ソースのレベルを0 dB付近に設定してください。O/P Trimでも微調整できます。

LIFT

小さな入力信号の録音に有効なワンボタンの解決策です。通常は捉えられない低レベルのオーディオを持ち上げます（詳細は該当セクションを参照してください）。

LO CUT 30, 80, 110 Hz

2つのスイッチの組み合わせでローカット（ハイパス）フィルターの周波数を選択します。どれもオフ、30 Hz（左スイッチ）、80 Hz（右スイッチ）、または110 Hz（両方）に設定できます。減衰率は1オクターブあたり6 dBです。

イコライザー

フルパラメトリックの3バンド・イコライザーは、以下の機能を備えます。

周波数レンジ

ロー・バンド : 50~700 Hz

ミッド・バンド : 75~10 kHz

ハイ・バンド : 1.25~12 kHz

可変コントロールで各バンドの中心周波数を設定します。問題のある帯域を探して補正するときに使用します。

カット／ブースト -12 dB～+12 dB

各バンドは、カットとブーストを連続可変で設定できます。選んだ中心周波数の周辺で加える／減らす量を決めます。

帯域幅 wide／narrow

ミッド・バンドの帯域幅を切り替えます。広くして大まかな補正を行うか、狭くして特定の周波数を精密に調整します。

EQ IN off-on

スイッチで EQ セクションをバイパスできます。A/B 比較に使用します。

SWAP off-on

EQ セクションとコンプレッサーセクションの並び順を入れ替えられます。一般的には、コンプレッション前に EQ を入れると温かいトーンになり、後に入れるよりクリーンなサウンドになりますが、最終的な効果は複数の要因に左右されます。

コンプレッサー

THRESHOLD +20～-30 dB

どの入力レベルからゲインリダクションを適用するかを決めます。本コンプレッサーはソフトニードルで、約 10 dB の入力範囲にわたり段階的にコンプレッションが始まり、その上では通常のレシオによるコンプレッションが適用されます。

RATIO 1:1～20:1

ソフトニードルを超えた後に適用される最終的な圧縮比を設定します。1:1（無圧縮）から20:1（ハードリミット）まで連続可変です。

ATTACK 0.2 ms～200 ms

スレッショルドを超えた入力信号に対してコンプレッサーが反応する速さを設定します。

RELEASE 0.01 s～2.5 s

入力レベルがスレッショルドを下回った後、システムが通常状態に戻る速さを設定します。

GAIN REDUCTION METER

8セグメントの LED バーグラフで、0～20 dB の範囲におけるコンプレッサーのゲインリダクション量を常時モニターします。

COMPRESSOR IN off-on

スイッチでコンプレッサーセクションをバイパスできます。A/B 比較に使用します。

出力

MIX WET-DRY

Mix コントロールで、プリアンプからのドライ信号と、EQ／コンプレッション後のウェット信号の割合を調整します。いわゆる“パラレルコンプレッション”のような効果を得られます。

OUTPUT TRIM -10 dB～+20 dB

Input Gain が 6 dB 刻みで動作するため、Output Trim は連続可変の微調整用として、目的の絶対レベルに合わせます。GR メーターが示すコンプレッサーによるゲインリダクション量にも注意してください。出力信号がピーク時に目標レベルへ近づくように調整してください。

BYPASS off-on

フルバランスのバイパスで、プリアンプから出力へ直接接続します。EQ、コンプレッサー、Mix、ゲインコントロールは一切通りません。超クリーンなマイク信号を得たいとき、または EQ／コンプレッサーの効果を A/B 比較で確認したいときに使用してください。

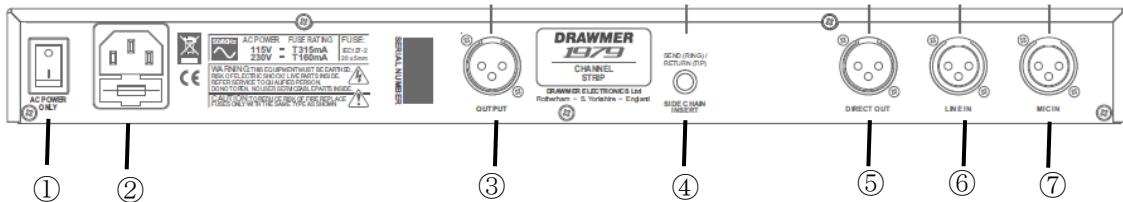
VU メーター

バックライト付きの可動コイル式 VU メーターで、XLR 出力における信号レベルを表示します。

+10 dBu Pad VU/+10 dB

通常レベル表示と、“ホット”な出力レベル向けの VU+10 dB 表示を切り替えます。スイッチを VU+10 dB にした場合、VU メーターが 0 dB を示すと実際のレベルは+10 dB になります。

背面パネル



1. AC POWER AC 電源スイッチ
2. AC FUSE AC 電源コネクター、ヒューズ
3. OUTPUT 出力 (XLR (オス))
4. SIDE CHAIN INSERT サイドチェイン・インサート (TRS フォン)
SEND/RETURN センド/リターン
5. DIRECT OUT ダイレクトアウト (XLR (オス))
6. LINE IN ライン入力 (XLR (メス))
7. MIC IN マイク入力 (XLR (メス))

本製品には、各国の家庭用コンセントに対応した電源ケーブルと内蔵ヒューズが付属します。ヒューズが切れた場合、または異なる商用電源電圧で使用する場合は、ユーザーマニュアルを参照してください。

入出力端子配線仕様

グランド／ハムループが発生する場合は、ケーブルの片側でピン1を切り離してください。

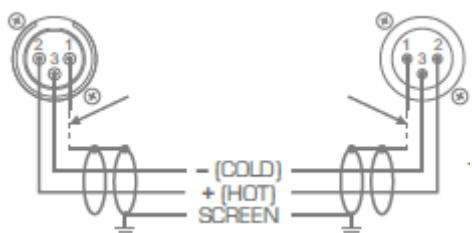
XLR 入力 (メス)

ピン配列 : 2=HOT (+) 3=COLD (-) 1=SCREEN (シールド)

アンバランス接続時は、ピン3とピン1を接続してください。

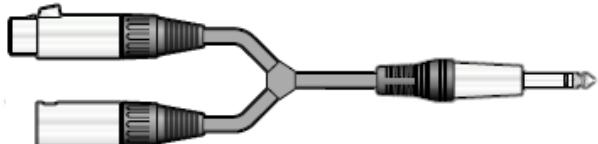
XLR 出力 (オス)

ピン配列 : 2=HOT (+) 3=COLD (-) 1=SCREEN (シールド)



XLR 入力 (メス) / XLR 出力 (オス)

インサート用ケーブル



接続先：ミキサーのインサート

XLR Y リード→ TRS フォン (インサートポイント)

すべてのミキサーのインサート端子が同じ配線とは限りません。必ずお使いのミキサーの取扱説明書を確認してください。

XLR Y リード (SEND/RETURN)

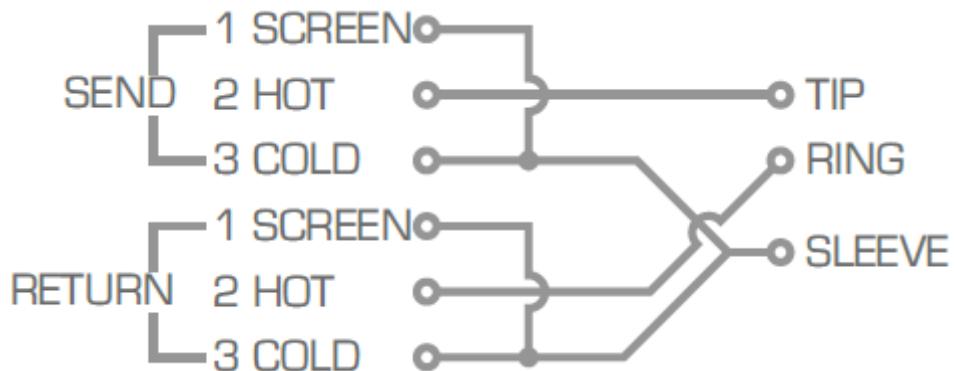
1=SCREEN 2=HOT 3=COLD

TRS フォン

TIP : 送出 (SEND)

RING : 戻り (RETURN)

SLEEVE : シールド (SCREEN)



LIFT とは

LIFT は、小さな入力レベルを適切に録音するためのワンスイッチ機能です。Ivor Drawmer が開発し、動作は連続的です。LIFT は本質的にローレベル用のダイナミックゲイン・モジュールで、0dB を超える信号には影響せず、0dB～-30dB の範囲では最大 10dB まで自動的にゲインを持ち上げ、-30dB より小さい信号には継続して 10dB のゲインを付加します。では、なぜ必要なのでしょうか。とても小さな音を録音するとき、一般的な対処はゲインを単純に増やす方法です。しかしこれはオーディオ全体のレベルに作用するため、大きな音も同時に上がり、クリッピングや歪みが生じやすくなります。LIFT スイッチの巧みさは、0dB のしきい値より小さいごく静かな信号だけを動的に増幅し、0dB 以上の信号はそのままにする点です。これにより大きなパッセージで不要なクリッピングが起きません。



粗く処理すると効果が目立ち不自然になりますが、

1979 の LIFT 機能は、音楽的でスムーズかつ透明な音質を得られるようパラメーターを固定し、操作はスイッチを一度押すだけにしました。スタジオ、ラジオ、テレビの音声、会議や PA など幅広く活躍します。ピアノ、ドラムの部屋鳴りをはじめ各種パーカッション、スピーチを含むあらゆるボーカルで高い効果を発揮します。通常、ボーカルの強弱を補うためにマイクワークを用い、静かなパッセージでは歌手がマイクに近づく場面が見られますが、LIFT を使うとその必要が減少し、場合によっては不要になります。

注意：他のゲイン増加と同様に、ノイズフロアも 10dB 上がります。さらに、ライブではハウリングが起きやすくなるため、サウンドチェック時に留意してください。

